

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年10月3日(月)～令和4年10月9日(日)〔令和4年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナでした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週(1.92人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.75人と前週(2.32人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.72人と前週(0.62人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## 知っていますか？～エンテロウイルスD68による感染症～

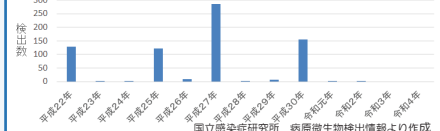
エンテロウイルスは、風邪や胃腸炎等の原因となるウイルスで、ウイルスの型によって様々な症状を引き起こします。中でも、エンテロウイルスD68は、感染すると発熱や咳等の症状が現れ、多くは軽症ですが、時に喘息様発作を起こすことが知られています。また、同じエンテロウイルス属のポリオと同様に弛緩性麻痺を起こすこともあります。

我が国では、平成22年及び27年に全国で患者数が増加し、同時期に喘息発作による入院数の増加や、急性弛緩性麻痺の患者の発生が多くみられました。エンテロウイルスD68は、2～3年周期で流行がみられ、今年は既に7月から米国で感染者数が増加しています。感染すると、アレルギーの有無にかかわらず、喘息様発作を起こすことがあるため、症状の変化に注意が必要です。

### エンテロウイルスD68感染症とは？

- 【感染経路】 飛沫感染、接触感染
- 【症状】
  - ・ 発熱、鼻汁、咳、喘息様発作、肺炎、弛緩性麻痺など
  - ・ 特に喘息の既往がある小児は重症化の可能性あり
  - ・ 麻痺の前に発熱を認める場合、発熱後6日程度で麻痺が出現
- 【予防対策】 手洗い、咳エチケットなど

全国のエンテロウイルスD68年別検出報告数(平成22年～令和4年)



エンテロウイルスD68による急性弛緩性麻痺は、ポリオウイルスと同様に、ウイルスが脊髄の一部に入り込み、手足などに麻痺が現れます。約80%の患者に様々な筋力低下が残るとされています。



川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 発行 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年10月12日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年10月10日(月)～令和4年10月16日(日)〔令和4年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.44人と前週(1.89人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.22人と前週(1.75人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.47人と前週(0.44人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



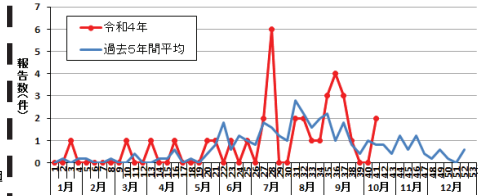
## 腸管出血性大腸菌感染症に御注意ください！

腸管出血性大腸菌感染症は、主に夏季に流行する感染症です。今年は9月に11件と例年より多くの報告があり、第41週(10月10日～10月16日)も2件の報告がありました。

原因となる大腸菌は、牛等の動物の腸管内に常在するため、肉類は汚染されている可能性があります。感染を防ぐためには、よく加熱(中心部の温度75℃で1分間以上)し、生肉や加熱不十分な肉類は食べないことが重要です。また、菌に汚染された生野菜を食べることで感染する場合がありますので、野菜は流水でよく洗って食べましょう。

腸管出血性大腸菌感染症は、汚染された人の手を介して、ヒトからヒトへ感染することもあります。そのため、一般的な感染症の予防と同様に、手洗いも重要です。食品の取扱いや手指衛生を適切に行い、感染を防ぎましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況 -令和4年(第41週まで)と過去5年間平均の比較-



**食中毒予防の3原則**

**付けたい**

- 手洗いの徹底
- 調理器具の使い分け

**増やさず**

- 適切な温度で保存
- 調理後、すぐ食べる

**やっつける**

- 十分な加熱
- 器具の洗浄

川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 発行 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年10月18日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年10月17日(月)～令和4年10月23日(日)〔令和4年第42週〕の感染症発生状況

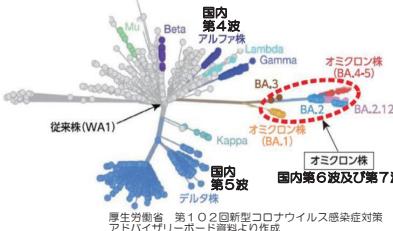
第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.61人と前週(2.44人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.47人と前週(1.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.17人と前週(0.47人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



## オミクロン株BA.4-5に対応したワクチンの接種を開始

新型コロナウイルスは、様々な変異株が確認されており、現在はオミクロン株が流行の主流です。さらに、オミクロン株の中にもBA.1からBA.5までの亜系統があり、現在、川崎市内ではBA.5による感染が中心です。  
 当初は、中国で流行した従来株に対応するワクチンを使用していましたが、流行状況に合わせてオミクロン株BA.1やBA.4-5に対応したワクチンも開発されました。川崎市では、従来型ワクチンの2回接種を終えた方を対象に、流行株であるBA.4-5に対応した新たなワクチンの接種を、令和4年10月24日から開始しました。オミクロン株の系統にかかわらず、オミクロン株の成分を含むことで、従来型ワクチンを上回る効果が期待されています。接種可能なワクチンは、年齢や接種回数により異なりますので御注意ください。

新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ



オミクロン株対応ワクチン接種対象者※

年齢	従来型ワクチン接種歴	接種対象者※
18歳以上	2回以上接種済み	BA.1対応型 若しくは BA.4-5対応型 接種対象者※
12～17歳	2回又は3回接種済み	接種対象者※

※従来型2回未接種の方及び12歳未満の方は接種対象外  
 ※オミクロン株対応ワクチンは種類を問わず1人1回接種可能  
 詳細については、川崎市のホームページをご覧ください

川崎市 KAWASAKI CITY  
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年10月25日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年10月24日(月)～令和4年10月30日(日)〔令和4年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.56人と前週(2.61人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.08人と前週(1.17人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は0.72人と前週(1.47人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱とともに全身倦怠感や咽頭炎などの症状を引き起こす細菌感染症で、好発年齢は就学前後(4歳～7歳)の小児です。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う予防対策の徹底や、休校等の影響により、この2年間の報告数は大きく減少していましたが、令和4年第43週(10月24日～10月30日)の川崎市における報告数は、定点当たり1.08人となりました。

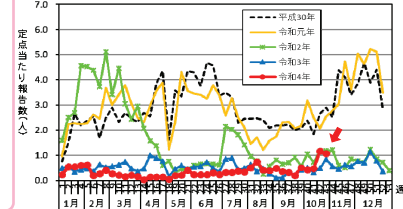
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、早期の適切な抗菌薬治療により、リウマチ熱や急性糸球体腎炎等の続発症を防ぐことができます。お子さんに発熱や咽頭痛以外に、莓舌(イチゴのように赤くポツポツした状態)等の症状がある場合は、早めに医療機関を受診し、処方された薬はしっかり飲み切りましょう。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

病原体: A群溶血性レンサ球菌  
 感染経路: 接触感染、飛沫感染  
 潜伏期間: 2～5日間  
 主な症状: 突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、莓舌(イチゴのように赤くポツポツした状態)、体や手足に小さく紅い点状発疹  
 予防対策: 患者との濃厚接触を避ける、手洗い等



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(5年間)



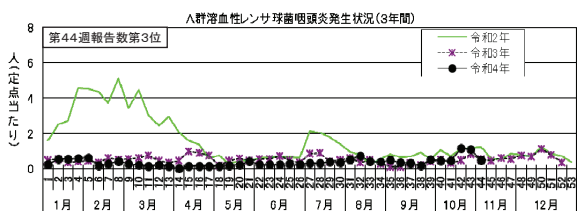
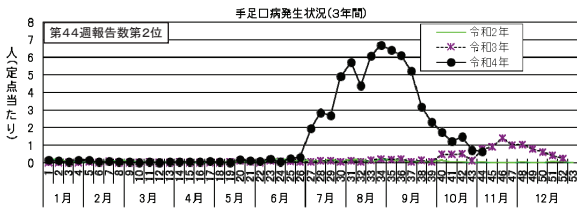
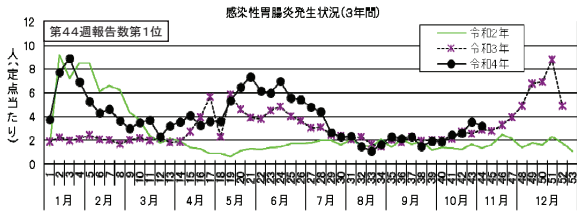
川崎市 KAWASAKI CITY  
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年11月1日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 令和4年10月31日(月)～令和4年11月6日(日)〔令和4年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発疹でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週(3.56人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.64人と前週(0.72人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.50人と前週(1.08人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。突発性発疹の定点当たり患者報告数は0.50人と前週(0.31人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



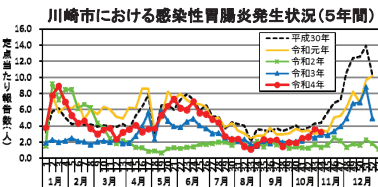
## ノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました！

神奈川県では、令和4年11月7日にノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました。ノロウイルスは、冬季の感染性胃腸炎の代表的な原因ウイルスです。川崎市においては、令和4年第44週(10月31日～11月6日)の感染性胃腸炎の定点当たり報告数が3.19人で、10月初旬頃から徐々に増加しており、今後の動向に注意が必要です。

ノロウイルスは感染力が非常に強く、感染すると下痢や嘔吐、発熱などの症状を呈します。通常2～3日で回復しますが、乳幼児や高齢者等では重症化することもあります。感染者の嘔吐物や便には多量のノロウイルスが含まれており、二次汚染(汚れた手などを介して食品を汚染すること)なども食中毒発生の原因となるため、手指衛生、調理器具の洗浄・消毒、嘔吐物等の適切な処理、食材の十分な加熱等の予防対策を徹底しましょう。

### ノロウイルスによる食中毒を予防するポイント

- ① トイレの後や調理の前等には必ず手を洗う。
- ② まな板などの調理器具は洗浄、消毒を！
- ③ 嘔吐物等を処理する場合には、直接触れない。
- ④ 食材は中心部まで十分加熱(85～90℃で90秒以上)



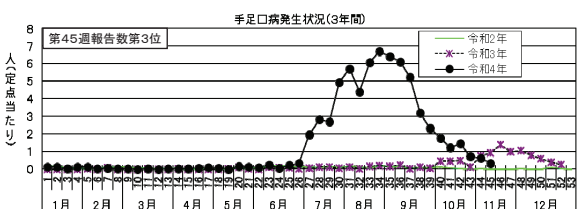
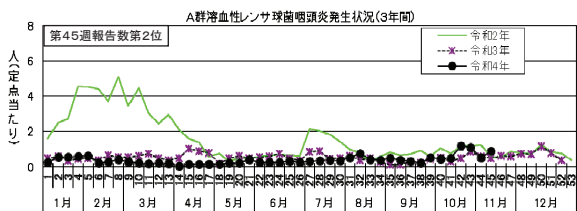
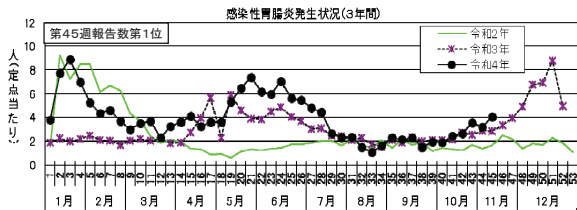
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年11月8日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 令和4年11月7日(月)～令和4年11月13日(日)〔令和4年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.06人と前週(3.19人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週(0.50人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.33人と前週(0.64人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

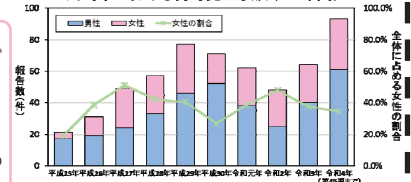


## 梅毒の報告数が過去10年間で最多に！

川崎市における梅毒の報告数は、今年は第45週(11月7日～13日)までにすでに計93件と、過去10年間で最多となりました。

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により粘膜や皮膚の小さな傷などから感染します。病期により様々な症状が出現し、無治療のまま症状が消失する時期もあります。また、潜伏期間の間に人に感染させる可能性もあり、気付かないうちに感染が拡大することがあります。特に、妊婦が感染し適切な治療が行われなかった場合、胎児が先天梅毒(皮膚病変、肝脾腫、奇形等)を発症する可能性がありますので、感染の可能性がある場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

### 川崎市における梅毒発生状況(10年間)



### 梅毒とは？

病原体：梅毒トレポネーマ  
感染経路：性的接触等  
潜伏期間：3～6週間  
主な症状

- 第Ⅰ期(感染後約3週間～)：局所にしこりや潰瘍等の皮膚病変、無痛性のリンパ節腫脹等
  - 第Ⅱ期(感染後約3か月～)：手掌や足底を含む全身に皮疹、粘膜疹等
  - 晩期(感染後数年～)：心臓や血管等の病変
- 治療：抗菌薬治療



### ※先天梅毒を予防するためのポイント

- ・ 定期的な妊婦健診
- ・ 疑わしい症状がある場合の梅毒検査
- ・ 梅毒診断時の早期治療
- ・ 妊娠中の安全性性交渉



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年11月15日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 令和4年11月14日(月)～令和4年11月20日(日)〔令和4年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週(4.06人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週(0.89人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.35人と前週(0.31人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

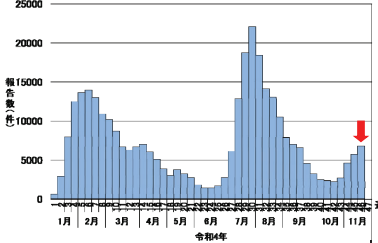


## 新型コロナウイルス感染症～報告数が4週連続増加！～

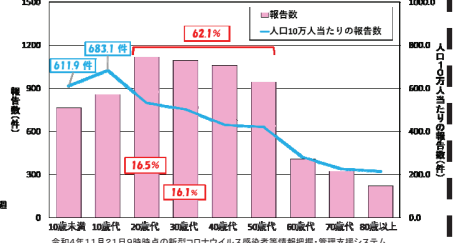
川崎市における令和4年第46週(11月14日～20日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は6781件と、4週連続で増加しました。新規感染者の年齢階級別の割合は、20～50歳代が62.1%と半数以上を占め、特に20歳代及び30歳代が各16.5%、16.1%と多くなっています。一方、人口10万人当たりの報告数は、10歳代が683.1件と最も多く、次いで10歳未満が611.9件となっています。これらのデータから、小児や若年成人での感染拡大が、報告数の増加に影響していると考えられます。

川崎市では、現在の流行の主流であるオミクロン株に対応したワクチンの接種を実施しています。接種対象の方は是非早めの接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症 診断週別発生状況 令和4年第1週～第46週



川崎市における新型コロナウイルス感染症 年齢階級別発生状況及び人口10万人当たりの報告数(令和4年第46週)



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和4年11月22日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 令和4年11月21日(月)～令和4年11月27日(日)〔令和4年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病・突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.97人と前週(3.76人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週(0.57人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.16人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.35人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



## 百日咳～予防のためにワクチン接種を～

百日咳は、百日咳菌を原因とし、特有のけいれん性の咳発作等を引き起こす細菌感染症です。ワクチンの普及とともに報告数は大きく減少し、近年の新型コロナウイルス感染症流行に伴う感染対策の影響を受けて、報告数はさらに減少しました。しかし、川崎市においては令和4年第47週(11月21日～11月27日)までに計5件の報告があり、今後は社会活動の再開とともに、再び増加する可能性もあります。

百日咳は、生後6か月以下の乳児が感染すると重症化しやすく、時に死亡する場合もあるため、ワクチンの初回接種(現時点では生後3か月～)は非常に重要です。定期接種として定められた期間内に、必ずワクチンを接種するようにしましょう。

### 百日咳とは？

【感染経路】 咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】 通常5～10日間(最大3週間程度)

【主な症状】

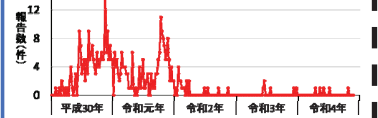
- ・かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ・短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種(DPT-I・PVなど)



川崎市における百日咳の発生状況 平成30年第1週～令和4年第47週



### 百日咳含有ワクチンの定期接種スケジュール(令和4年11月時点)

- 4種混合ワクチン
- 初回接種: 生後3～12か月の間に、20～56日の間隔を置いて、計3回接種
- 追加接種: 初回接種終了後、6か月以上の間隔を置いて、1回接種

川崎市 KAWASAKI CITY

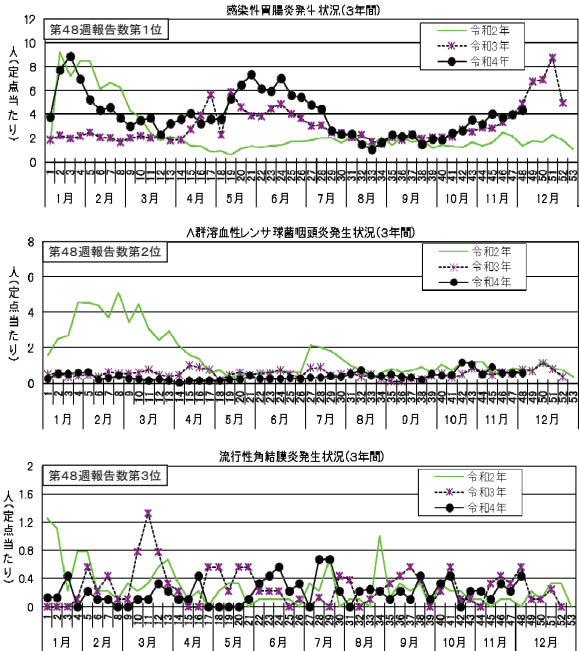
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和4年11月29日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年11月28日(月)～令和4年12月4日(日)〔令和4年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週(3.97人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週(0.57人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週(0.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



## 感染性胃腸炎の感染拡大を防ぎましょう！

感染性胃腸炎は、細菌やウイルス等を原因とする感染症で、冬季を中心に流行し、例年12月から1月にピークを迎えます。川崎市においては、第48週(11月28日～12月4日)の定点当たり報告数が4.32人となり、10月以降増加傾向が続いています。

感染の拡大を防止するためには、ウイルスが飛び散らないように、患者のふん便や吐びつを適切に処理することが重要です。汚染された床等は、必要な濃度の塩素消毒液等を用いて消毒を行いましょう。

### ふん便や吐びつの処理方法

- ① 使い捨てのガウン(エプロン)やマスク、手袋を着用
- ② ペーパータオル等で吐びつ等を静かに拭き取る。
- ③ 床等は塩素消毒液で浸すように消毒後、水拭き
- ④ 拭き取りに使用したペーパータオル等は、廃棄物が充分に浸る量の塩素消毒液を入れたビニール袋に密閉して廃棄
- ⑤ 手袋をしていても、処理後に流水と石けんで手洗い

※処理中や処理後は、空気の流れに注意しながら十分に換気

### 塩素消毒液(次亜塩素酸ナトリウム希釈液)の作り方

食器、カーテン等の消毒や拭き取り(0.02%(200ppm)の塩素消毒液)

製品濃度	次亜塩素酸ナトリウムの量	水の量
12%	5ml	3L
6%	10ml	3L
1%	60ml	3L

おう吐物等の廃棄(袋の中で廃棄物を浸す)(0.1%(100ppm)の塩素消毒液)

製品濃度	次亜塩素酸ナトリウムの量	水の量
12%	25ml	3L
6%	50ml	3L
1%	300ml	3L

※おう吐物等の酸性のものに直接原液をかけると、有毒ガスが発生することがありますので、必ず「使用上の注意」をよく読んでから使用してください。  
※次亜塩素酸ナトリウムは使用期限内のものを使用してください。



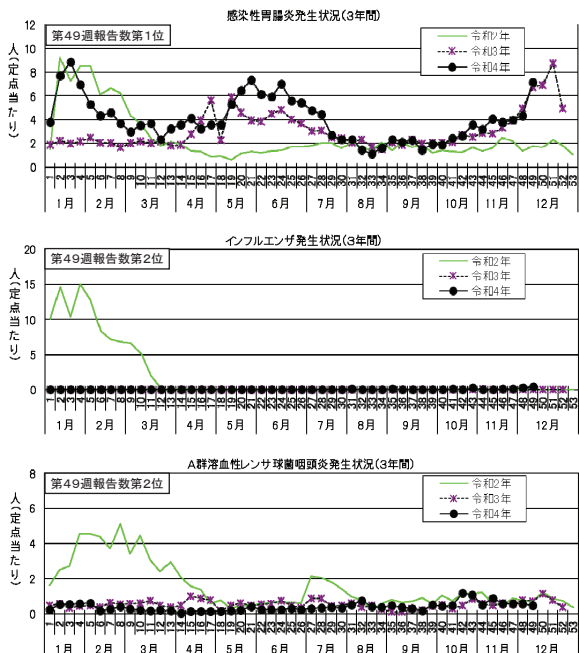
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年12月6日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年12月5日(月)～令和4年12月11日(日)〔令和4年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.16人と前週(4.32人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.46人と前週(0.23人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週(0.57人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



## 保育所における新型コロナウイルス感染症対策

川崎市における第49週の新型コロナウイルス感染症の報告数は、9834件と増加傾向にあり、10歳未満の小児の報告数も増えています。家庭内で学童から未就学児へ感染し、保育所等で感染が拡大する事例もあり、集団生活の場では、引き続き対策が求められています。

厚生労働省が作成している「新型コロナウイルス感染症対策に関する保育所等に関するQ&A」によると、感染対策のポイントは、こまめな換気の実施、遊具や玩具の消毒です。また、子どものマスクの着用は、他者との身体的距離にかかわらず、一律には求めていません。

保育の場では、適切な感染対策を取りつつ、子どもの健やかな成長を妨げないようにバランスのとれた対策を実施しましょう。

### 感染対策のポイント

**換気方法**  
可能な限り常時2方向の窓を開ける。  
(困難な場合は1時間に2回程度、数分間、窓を全開)

**玩具、遊具の消毒方法**  
直接口に触れる玩具、遊具は、使う度に湯で洗い流して干す。洗えない場合は、水拭きも可  
玩具、遊具は塩素系消毒液の希釈液又は消毒用アルコールで消毒する。

窓が1つしかない場合はドアを開け、扇風機などを外に向けて。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年12月13日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 令和4年12月12日（月）～令和4年12月18日（日）〔令和4年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.86人と前週(7.16人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.64人と前週(0.46人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.35人と前週(0.46人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

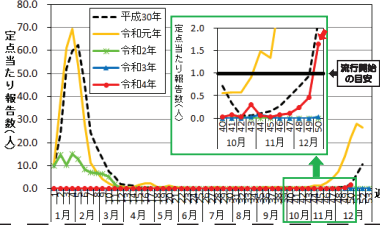


## インフルエンザが3年ぶりに流行期に入りました！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和4年第50週(12月12日～12月18日)に1.64人となり、令和元年以来3年ぶりに流行開始の目安である1.00人を超えました。新型コロナウイルス感染症の流行以降、インフルエンザの報告数は激減していましたが、今年は10月頃から報告数が増加しています。

今後、インフルエンザの感染拡大が予測されるため、川崎市では、高齢者を対象としたインフルエンザ予防接種を令和5年1月31日まで延長しています。早めの接種を御検討ください。

### 川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



発行

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年12月20日作成

### 高齢者を対象とした定期のインフルエンザ予防接種

◆対象者  
川崎市内に住民登録があり、接種を受ける御本人が接種を希望している方のうち、次の①又は②にあてはまる方  
①令和4年12月31日時点で65歳以上の方  
②令和4年12月31日時点で60歳～65歳未満の方で  
・心臓、腎臓、呼吸器の機能障害(障害1級程度)のある方  
・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害(障害1級程度)のある方

◆実施期間と回数  
令和4年10月1日～令和5年1月31日の間に1回

◆接種を受けられる場所  
川崎市予防接種個別協力医療機関  
(市が指定した市内約68カ所の医療機関)

◆自己負担額  
無料

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

## 令和4年12月19日（月）～令和4年12月25日（日）〔令和4年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.78人と前週(7.86人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.23人と前週(1.64人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.32人と前週(0.35人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



## 年末年始はインフルエンザにも注意しましょう

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和4年第51週(12月19日～25日)に11693件と、依然として多い状況です。また、インフルエンザの定点当たり報告数が4.23人と前週から増加しており、今後の感染拡大に注意が必要です。

インフルエンザであっても基本的な感染対策は同じです。手指衛生や換気、人混みでのマスクの着用等に加え、特に年末年始は大人数での集まりを控えることも重要です。また、少しでも体調がすぐれない場合は、自宅でお過ごしください。

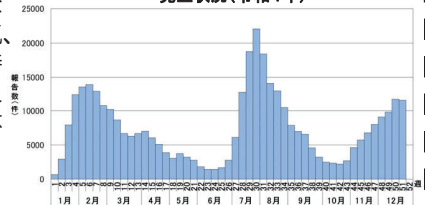
### 年末年始の感染対策

軽い咳やのどの痛み等、体調がすぐれない場合は人の接触や外出を控える。

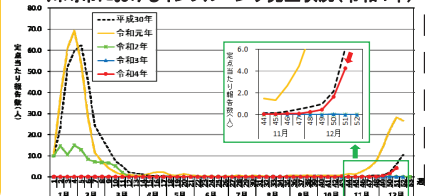
人が集まる場所では定期的な換気を実施

大人数での集まりは控え、人混みや乗り物の中ではマスクを着用

### 川崎市における新型コロナウイルス感染症発生状況(令和4年)



### 川崎市におけるインフルエンザ発生状況(令和4年)



発行

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年12月27日作成

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年12月26日(月)～令和5年1月1日(日)〔令和4年第52週〕の感染症発生状況

第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.42人と前週(8.78人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.65人と前週(4.23人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.67人と前週(0.32人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



## 海外から帰国後は体調不良に御注意を！

我が国では、令和4年10月からの水際対策の緩和に伴い、年末年始にかけて海外旅行をされる方が大幅に増加しています。一方で、海外旅行者が、帰国後に何らかの体調不良を訴えるケースは比較的多いとされており、特に発熱や発しん、下痢等の症状がよくみられます。中には思わぬ感染症が潜んでいる可能性もありますので、医療機関を受診する際は、症状に加えて旅行先、旅行期間、旅行中の行動歴等を、必ず医師に伝えましょう。

### 発熱

海外から帰国後、発熱することは多く、特に発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられるといわれています。

【発熱をきたす感染症】  
デング熱、マラリア、腸チフス等



### 発しん

ウイルスや細菌、寄生虫等が原因で発しんが出現することがあります。疾患によっては、発熱やかゆみを伴う場合もあります。

【発しんをきたす感染症】  
麻疹、風しん、デング熱等



### 止まらない下痢

海外旅行に行った人の半数以上が旅行先で下痢を起こします。通常は数日でおさまりますが、帰国後も症状が続く場合もあります。

【下痢をきたす感染症】  
細菌性赤痢、コレラ等



### 医療機関受診前のチェックリスト(旅行中の行動歴等)

- 生水を飲んだ
- 氷入りの飲み物を飲んだ
- 生の野菜や果物を食べた
- 屋台の食品を食べた
- 湖や川の中に入った(泳いだ)
- 蚊に刺された
- タニに咬まれた
- 動物に咬まれた
- 周囲に体調の悪い人がいた
- 現地で治療を受けた

厚生労働省検疫所 (FORTH) ホームページ 「病院にかかる前のチェックシート」から抜粋



川崎市  
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
(問合せ先) 044-276-8250 令和5年1月5日作成

